

研究所だより

教育三笠

第218号

発行／三笠市教育研究所

- 新年度のあいさつ
- 三笠市立教育研究所運営計画

【三笠小学校】



今年2月には、内閣府知的財産戦略推進事務局より、小中高등학교で知財創造教育を推進する内容が示されました。「知財創造教育」とは聞きなれない言葉ですが、「新しい創造をすること」「創造されたものを尊重すること」をそのことにより社会を豊かかなすることと結びつく能力を育むことであると説明されています。

子どもの姿を考えると、幼児期には新しい発見に対する驚きや喜びが大きいのに、やがて、夢も具体性がなくなり、社会に対する興味、関心が薄れていくような現象がおきつつあるような気がします。職業も事務的な分野は人工知能が担う社会に変化していくことが予測されている中で、これ

の地に今年も美しい新緑の季節がやってきました。各校、新年度を迎え、旅行的な行事や体育行事など多忙な日々をお過ごしのことと存じます。

小学校では、新学習指導要領移行期最終年となり、特色ある教育の充実へ向け、何を変えなければならぬのか、何が変わるのか、研修の重要性が更に問われることとなります。

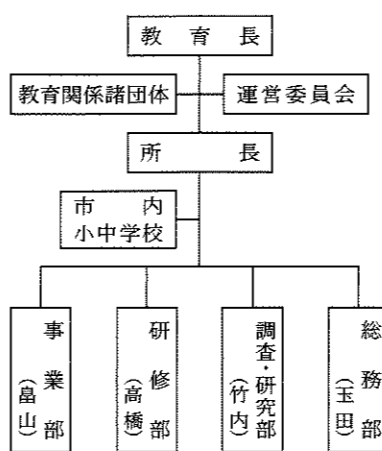
今年2月には、内閣府知的財産戦略推進事務局より、小中高등학교で知財創造教育を推進する内容が示されました。「知財創造教育」とは聞きなれない言葉ですが、「新しい創造をすること」「創造されたものを尊重すること」をそのことにより社会を豊かかなすることと結びつく能力を育むことであると説明されています。

子どもの姿を考えると、幼児期には新しい発見に対する驚きや喜びが大きいのに、やがて、夢も具体性がなくなり、社会に対する興味、関心が薄れていくような現象がおきつつあるような気がします。職業も事務的な分野は人工知能が担う社会に変化していくことが予測されている中で、これ



三笠の教育新たな創造へ 三笠市教育研究所長 松井牧子

研究所機構図



1. 教科及び教科外指導の協力・相談について
2. 研究指定校の担当について
3. 振興会事務局担当(玉田)
4. いじめ問題対策連絡協議会(崑山)
5. 情報教育部会(高橋)
6. 勤務
 - 毎週水曜日・金曜日を定例の出動日とし、15時から17時まで勤務する。
7. 機構図
 - 三笠市教育研究所条例施行規則 第3条の規定により左図のように定める。

研究所からは、教育関係の出版物や各種研究資料及び教育雑誌が整理・保管されています。戦後の貴重な資料から今日的な内容の資料まで相当な量の資料があります。お気軽にお電話等でお申し込みください。また、直接研究所にも足をお運びになってください。お待ちしております。

なお、研究所では今年度、次の書籍を定期購読しておりますので、ぜひご利用ください。

- ▽教育科学 国語教育(明治図書)
- ▽教育ジャーナル(学研)
- ▽教職研修(教育開発研究所)

研究所から 研究図書・資料・雑誌の利用について

今年も開催！ ためになる「夏季講座」

今年度も「夏季講座」を開催します。教育活動のさらなる充実に向け、ぜひ研修を深める機会にさせていただけたらと思います。昼食は、三笠市ジオパークの様々な要素が具材で表現された「三笠市ジオパーク駅弁当」を斡旋しております。三笠の「お宝」を食べるお弁当、ぜひ一度、ご賞味ください。

所員一同、よい講座になるよう準備しております。多くの方のご参加をお待ちしております。

【期日】	令和元年8月5日(月)
【会場】	三笠市公民館
【日程】	8:45～ 受付 開会式
	9:00～ 開会式
	9:10～ 講座1 キャリア教育講座
	「三笠高校生レストランからの学びを広げて」
	講師：北海道三笠高等学校教諭 斎田 雄司 氏
	講座2 国際理解教育講座
	「世界の環境問題と教育支援」
	講師：JICA 北海道センター市民参加協力課 課長補佐 野舌 奈穂子 氏
	12:00～ 昼食・三笠市ジオパーク駅弁当
	13:00～ 講座3 特別講座「小中連携教育と誤解答から導く確かな学び」
	講師：文部科学省国立教育政策研究所 教育課程研究センター 研究開発部 中学校数学学力調査官 佐藤 寿仁 氏
	14:45～ 閉会式

地域素材めぐり「まるごと三笠」

今年もやります！三笠の自然、炭鉱遺産、歴史を「まるごと」楽しむ地域素材めぐり「まるごと三笠」。今年度の見学予定地は、音羽坑、桂沢ダム、博物館を予定しております。どちらもジオパークガイドによる説明をきくことができ、三笠について深く学べます。さらに今年度は、レストラン「Geovillage」にて昼食を予定しております。

申し込みは、各学校で回覧される申し込み用紙にご記入ください。締め切りは、7月10日です。ぜひご参加ください。

【日時】8月9日(金)9:00～15:00
【内容】地域素材の見学及び説明(ジオガイド付き)
【見学予定地】音羽坑、桂沢ダム、博物館
※昼食～レストラン「Geovillage」
※雨天時～鉄道村、三笠インプログレス、博物館、かざぐるま
※昼食～レストラン「Geovillage」

編集後記

今年度最初の所報「教育三笠」を発行することができました。教育委員会、各教育関係機関、ならびに教職員の皆様にお忙しいなか原稿の執筆等のご協力をいただきました。感謝申し上げます。年4回の所報「教育三笠」を通して、三笠の教育の動向をご理解いただく一助になれば幸いです。

研究所では、毎週水曜日・金曜日の午後

三笠市教育研究所所報

発行日 令和元年6月28日
発行所 三笠市教育研究所
代表 松井 牧子
三笠市若草町404
電話 2121197番
印刷所 中央印刷株式会社

ご挨拶

三笠市教育委員会教育長 高森裕司



教育研究所をはじめ、教育関係者の皆様には、日頃より本市の教育の推進にご尽力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

この度、教育長に就任しました高森でございます。微力ではございますが、教育委員会が果たさなければならない役割と責任の重大さを深く認識し、市長と教育委員会との連携を一層緊密なものとし、本市の教育の更なる充実と発展のため、誠心誠意努力してまいりますので、皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

少子高齢化が進展する中、グローバル化や人工知能、AIなどの技術革新が急速に進み、予測困難なこれからの時代に、持続可能な社会の創り手の育成が重要な課題となっております。また、平成32年度からの新学習指導要領の全面実施においては、地域との連携・協働による「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、子どもたちが未来社会を切り開くための資質・能力を確実に育むために、教科横断的な視点に立った「カリキュラム・マネジメント」の確立と「主体的・対話的で深い学び」の実現を両輪として機能させることが求められております。

本市は、「人が育つまち三笠」を教育のめざす姿として、三笠市教育大綱を策定し、家庭・学校・地域社会が一体となって「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を基礎とする子どもたちの「生きる力」を育むとともに、地域の歴史や文化、まちづくりなどへの関心を深

ご挨拶

北海道三笠高等学校長 遠藤直樹



開校8年目を迎える新生三笠高校で2年目の勤務となり、生徒はもちろん、保護者地域の皆様からの本校への期待の大きさを感しております。

調理師・製菓衛生師への最短コースである道内唯一の食物調理科単科高校の本校は、調理・製菓の専門的な知識・技術の修得とともに、社会的自立に向けたたくましさや育む教育を目指しており、一流の講師陣を迎えた実習やインターンシップ等を通して、生徒が成功や失敗を繰り返しながら成長し、夢を叶えることができる高校です。

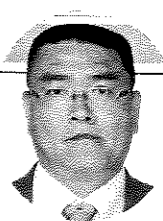
特に、昨年7月にオープンした三笠高校生研修施設「エソール」内での、調理部・レストラン「まごころきつちん」や製菓部カフェ「Cafe(シエリー)」の運営、地域連携部の地域企業との商品開発やエソールストアの運営協力はお客様から直接評価をいただくよい機会となっております。第1期生から5年連続進路決定率100パーセントという結果は、このような教育実践と生徒の頑張りによるものと思っております。

これからも、生徒・保護者の皆様にとって、本校が憧れの学校であり、入学後も期待どおりの学校であり、卒業後もすばらしい学校だと改めて実感し、誇りに思える学校であるよう、教職員一同、自己の専門性を発揮し、さらに新しい課題に取り組み、力量を高める努力

をしてまいりますので、引き続き、本校の教育活動に対する皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

地域の期待に応える学校教育の創造

三笠市教育研究振興会会長 高岸春二



この度、岡山小学校に着任した校長の高岸春二です。どうぞ宜しくお願い致します。

身も少し若返ったような気持ちになり、学校生活を送っています。小中一貫教育、CSの取組を充実させて、地域に開かれた学校経営を進めていきたいと考えています。

今年度の三笠市教育研究振興会の会長の任を仰せつかり、三笠市教育研究所との連携を通して、微力ながら三笠市の教育発展のため努力していきたいと考えております。

研究所が掲げる今年度の研究課題は、「確かな学力を育てる小中一貫教育の研究」や「郷土愛を育むキャリア教育の充実に向けて」です。研究振興会では、情報教育、音楽発表会、図工美術展、文集「三笠の子」編集の4つの部会と13の研究部会を組織し、三笠市の教育発展のため研究と事業の推進に当たります。

来年度からの新学習指導要領の完全実施に向け、地域・保護者の期待に応えるべく、振興会会員の総力を挙げて自己研鑽に励み、三笠市の子どもの健やかな成長を支える教職員でありたいと思います。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

学ぶことの楽しさを

三笠小学校 桜井寿人

皆さん、2018年に発表された小・中学校の不登校者数は、5年前と比べ、どうなっていたと思いますか(在学者に占める不登校者の割合)。

実は、小・中学校ともに、増加傾向にあります。小学校は、約0.23%(約1.4万人)、中学校は、約0.74%(約1.8万人)の増加です。2017年の割合は、小学校では、約0.54%(約3.5万人)、中学校では、約3.3%(約10.9万人)になり、この調査が始まったから、過去最悪の数字です。

この調査を過去に遡ると、中学校では、2001年までは鱈上りに増え、その後、微増を続けて2007年でピークを迎え、その後、2012年まで下がり続けますが、翌年から毎年増加に転じます。小学校も同じ傾向ですが、2001年をピークに高止まり、毎年わずかながら減少傾向にありましたが、2012年が底で翌年から毎年増加に転じます。もう、お気づきでしょうか、不登校者が増加に転じたのは、ちょうど、「ゆとり教育」が行われていた時期から「学力重視」に再び舵を切った時期と、見事にリンクしています。

現在、学校教育は、時代の要請の中で学習内容が増え、それに伴う授業時数の増加など、激しく変わってきています。本来、「学ぶことは楽しいこと」のはずです。今こそ、教育の本質に立ち返り、新しい道を模索しなければならぬ時期に来ているのではないのでしょうか。

め、地域を知ることによって、三笠で生きることに誇りを持ち、三笠の未来を考え、郷土愛を育む教育を推進しております。

さらに、基礎的・基本的な知識・技能の習得に加え、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成や学習意欲の向上、多様な人間関係を結んでいく力や習慣の育成等を重視するとともに、小中一貫コミュニケーション・スキルを推進し、家庭・学校・地域全体で子どもたちを守り育てる教育環境の充実に努めてまいります。

昨年7月22日にオープンした三笠高校生レストランは、市内外から多くのお客様がご来店され、頑張っている高校生を激励いただいております。食のスペシャリストを目指して全道各地から三笠高校に入学される生徒たちの貴重な3年間を責任をもってお預かりし、夢の実現に向けて着実に成長できるように、学校長はじめ教職員の皆さんとともに精一杯努めてまいります。

子どもたちは地域の宝であり、地域の子どもは地域で育てるといふ強い思いのもと、家庭・学校・地域が互いに連携・協力し、子どもたちが将来の夢と希望に向けて挑戦できる教育環境づくりに全力で取り組んでまいりますので、今後とも、本市の教育へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



令和元年度 教育研究所運営計画

I. 運営方針

今日の教育の方向性や教育の実態等を的確に把握し、教育研究の科学性・時代性・即時性、先導性に立脚した教育に関する理論と実践の研究を行う。併せて、市内各校における教育活動が、意欲的かつ効果的に進められるよう研究・協力指導・助言の機能を十分発揮し、市教育の振興に寄与する。

II. 運営の重点

- 1. 新教育課程の編成・実施についての調査研究に努める。
2. 教育現場の課題を把握し、実践に役立つ調査研究に努める。
3. 教育に関する情報を広く収集し、提供と活用を努める。
4. 各校と提携・交流を深め、実践課題の究明に努める。
5. 研修事業の効果的な推進に努める。
6. 広報活動の充実と活発化に努める。
7. 振興会等、市内における各種研究機関・団体との連携を深め、所務の円滑な推進に努める。
8. 道研連・各教育研究所・道内教育研究機関・団体との提携・交流を深め、研究事業の充実に努める。
9. 運営委員会を開催し、所務の適正な運営に努める。

III. 運営計画

- 1. 総務部(玉田)
(1) 所務の総括と企画・運営に関すること
(2) 各部業務の連絡・調整
(3) 所員会議の企画・運営

ご挨拶

北海道三笠高等学校長 遠藤直樹



開校8年目を迎える新生三笠高校で2年目の勤務となり、生徒はもちろん、保護者地域の皆様からの本校への期待の大きさを感しております。

調理師・製菓衛生師への最短コースである道内唯一の食物調理科単科高校の本校は、調理・製菓の専門的な知識・技術の修得とともに、社会的自立に向けたたくましさや育む教育を目指しており、一流の講師陣を迎えた実習やインターンシップ等を通して、生徒が成功や失敗を繰り返しながら成長し、夢を叶えることができる高校です。

特に、昨年7月にオープンした三笠高校生研修施設「エソール」内での、調理部・レストラン「まごころきつちん」や製菓部カフェ「Cafe(シエリー)」の運営、地域連携部の地域企業との商品開発やエソールストアの運営協力はお客様から直接評価をいただくよい機会となっております。第1期生から5年連続進路決定率100パーセントという結果は、このような教育実践と生徒の頑張りによるものと思っております。

これからも、生徒・保護者の皆様にとって、本校が憧れの学校であり、入学後も期待どおりの学校であり、卒業後もすばらしい学校だと改めて実感し、誇りに思える学校であるよう、教職員一同、自己の専門性を発揮し、さらに新しい課題に取り組み、力量を高める努力

提供

④ 社会科副読本「わたしたちの三笠再編集」
ア. 新学習指導要領実施にあたり、「キャリア教育」の視点を含めながら現在の内容を再編集し、副読本改訂版の発行に向けて準備を進める。

3. 研修部(高橋)

- (1) 各校の実践課題及び研究計画を把握し、研究実践に協力する。
ア. 各校研究計画の紹介と交流の促進
イ. 校内研究への積極的参加
ウ. 研究資料、情報の提供
エ. 研究成果の交流

① 研究指定校及び各校の研究の主体性を尊重し、共同研究の立場で積極的に参加し、協力を図る。
ア. 研修担当者との連携を密にし、相互理解を図る。

- (2) 研究指定校等、各校との連絡・提携に関すること
ア. 三笠市立岡山小学校
イ. 三笠市立豊野中学校
(3) 所内研修に関すること
(4) 所外研修の企画・推進
(5) 各種研究会、講習会への積極的参加と現場意識の促進

- ア. 道研連・道研連研究会への参加
イ. 各教育研究所・講習会への参加
ウ. その他、研究会・講習会への参加
エ. その他、研究会・講習会への参加
オ. 研究推進地域・学校等の視察・研修